

信濃川大河津資料館友の会だより

イベント報告

バスツアー五十嵐川

9月12日(水)バスツアー五十嵐川を開催しました。平成16年7月13日の水害で破堤した現場や五十嵐川に関する施設を見学してきました。

◆コース◆

①刈谷田川破堤現場②五十嵐川破堤現場・信濃川合流点改修現場③三条市歴史民俗産業資料館④諸橋轍次記念館・生家⑤大谷ダムふれあい資料館⑥大谷ダム監査廊⑦笠堀ダム



五十嵐川破堤現場

五十嵐川改修事務所の方から案内していただき、災害の恐ろしさを再認識させられました。



三条市歴史民俗産業資料館

資料館の方から説明していただき、五十嵐川築堤の功労者である「松尾与十郎」について勉強しました。



大谷ダム監査廊

普段入ることのできないダムの中に入りました。急な階段を下り、発電機室を見せていただきました。

大河津分水撮影会

9月29日(土)大河津分水撮影会を開催しました。新潟県写真家協会副会長であり、友の会会員でもある平賀治雄さんより写真撮影のテクニックを教えてくださいました。撮影会では中之島銭太鼓の皆さんと中条吟詠会の皆さんからモデルとなっていました。



平賀治雄さん



中之島銭太鼓の皆さん



中条吟詠会の皆さん

サケまつり

10月20日(土)サケまつりを開催しました。大河津分水路を上ったサケでサケ汁を作り、資料館前にテントを設け、来館者の皆さんに大河津分水のサケを楽しんでいただきました。



サケまつりの様子

川の物語発表会2007

11月17日(土)川の物語発表会2007を開催しました。会員の方から川にまつわる歌や調査・研究などを発表していただきました。



片桐良五さん

お弟子さんと一緒に「もみじ」「ふるさと」を横笛で、「学舎の窓・北帰行」を尺八で演奏されました。



捧一二さん

「横田切れの検証」と題して、日頃研究している成果を発表されました。



中之島中条の皆さん

会員の山田司羅雄さんが作詞・作曲された「逍遙 大河津分水郷」を合唱されました。



山田正義さん

「逍遙 大河津分水」と同様、山田司羅雄さんが作詞・作曲された「雅城へのいざない」を歌われました。



松井広宇さん

「分水の四季」と題して、これまで詠みつづった大河津分水にちなむ俳句を発表されました。



福澤譲時さん

「私の川の物語」と題して、自ら撮影された千曲川・信濃川の写真を紹介されました。

友の会役員会

12月18日(火)友の会役員会を行いました。役員会では平成19年度の活動報告や平成20年度の事業計画が話し合われました。

バスツアー候補地の選定難航

役員会にて次の3案が選定されましたが、いずれも甲乙付けがたく、現在、予算や行程などを検討中です。「このコースがよい!」「ここも視たらどうか?」というご意見があれば、ぜひ事務局までご一報くださいますようお願い致します。



案① 信濃川上流

アルプス公園砂防学習館や上高地を訪ね、信濃川の源流を探る。

案② 関川・姫川

平成7年7月11日の水害地を訪ね、信濃川との相違やフォッサマグナと越後平野の関わりを考える。

案③ 東京荒川

青山土生誕130年を記念し、青山が設計した旧岩淵水門と関係資料が残る荒川知水資料館を訪ねる。荒川・隅田川クルージングも予定。

主な事業案

- ◆お茶を楽しむ会
- ◆可動堰改築事業講演会・見学会
- ◆大河津分水路見学ツアー
- ◆1泊2日バスツアー事前学習会・見学会・報告会
- ◆双書発刊に伴う講演会
- ◆日帰りバスツアー(山古志・芋川予定)
- ◆信濃川・大河津分水句会
- ◆サケまつり・奉仕活動・衛星画像上映会
- ◆歩く散策ツアー(国上山予定)
- ◆川の物語発表会・展覧会
- ◆友の会活動を考える会

まだ案の段階で、予算や他のイベントなどを総合的に検討し決定します。詳細が決まり次第、友の会だよりなどでお知らせしますので、ふるってご参加ください!

今号の可動堰

新可動堰完成に向けて、可動堰周辺の定点撮影を紹介します。

7月から9月まで一時中断していた工事が10月より再開し、本格的に工事が行われています。現在、2基の堰柱と左岸側の魚道の工事が主に行われています。

資料館の4F展望室からも、形となっていく新可動堰の様子を見ることができます。ぜひご覧下さい。



右岸堰軸から撮影
(平成19年12月21日撮影)



右岸堰軸から近景を撮影
(平成19年12月21日撮影)

企画展 もし大河津分水がなかったら…?! 新潟市東部編

「もし大河津分水がなかったら…?!」第4弾は新潟市東部編。大河津分水完成前後の様子などをパネルで紹介します。期間中は土日を中心に展示解説を行うほか、パソコン画面上で越後平野を俯瞰する「越後平野仮想飛行体験会」も開催します。

期間：12月22日(土)～1月20日(日)

会場：ふれあいパーク久賀美(道の駅 国上)



企画展の様子

「信濃川・越後平野の地形と地質」販売中!

前号でお知らせした「信濃川・越後平野の地形と地質」が12月より販売されました。衛星写真や地形図が多く盛り込まれており、信濃川や越後平野の成り立ちを知ることができる1冊です。

資料館で取り扱っていますので、ぜひご覧下さい。



定価：500円(税込)

毎月第二土曜日は友の会の日!!

毎月第二土曜日に“友の会の日”を設けています。会員の方がゆっくり休憩できるようにお茶を用意しています。会員の方と交流の場となると思います。ぜひご来館下さい。

イベントの要望

友の会のイベントで“こんなことをやってほしい!”、“こんなことをやりたい!”など、皆さんからの要望をお待ちしています。要望がありましたら事務局までご連絡下さい。

白鳥飛来中!!

毎年多くの白鳥が大河津分水にやってきます。今シーズンは10月16日に最初の白鳥が確認されました!観察に適した時間帯は早朝もしくは夕方、3月中旬頃まで観察することができます。白鳥の他にカモの仲間やオジロワシも大河津分水にやってきます。双眼鏡やカメラを片手に、ぜひ観察下さい。



平成19年11月8日撮影



「千の風」を飲みながら

友の会会員 酒井 智之

テノール歌手の秋川雅史さんが歌った「千の風になって」。この歌の作曲を行ったのが新潟市出身の新井満さんで、新潟に縁のある曲といえます。

この歌にちなんで酒造メーカーから「千の風」というお酒が販売され、宝光院の解良さんから先日頂きました。

解良さんとの出会いは6年前までに遡ります。五百川前館長の大学の講義で「横田切れ」の話聞き、宝光院の柱を見たいと思って訪れたのがきっかけです。

在学中は、友の会のイベントで大変お世話になり、新潟を身近に感じるきっかけを作って頂きました。

そんなこともあり、大学を卒業してからも新潟にはよく遊びに行っていて、お会いするときは会食を開いて頂いて、美味しい料理をご馳走になっています。本当に感謝しています。

大学時代の同級生やサークルの仲間との交流がありますが、私のようなケースはあまりないと思います。

縁は不思議なものと言いますが、大河津分水が出会わせてくれたのでしょうか。

さて、最初の「千の風」ですが、とても飲みやすいので一度皆さんも試飲されることをお勧めします。



世界に無双な名遺訓「万象天意」に目覚めよう

友の会会員 山田 司羅雄

序章

私はまだ小さい頃、家の人に連れられて、分水のお花見に行った事を3回くらい覚えている。今から数十年も昔の思い出である。当時の分水公園広場に土堤はなく、平らの芝生に内務省（現：国交省）の赤煉瓦（？）造りの洋風な水防倉庫か、管理工場の一部かの建物が有った様だったが良く分からない。40mくらいの間隔で2、3棟ほどを覚えて居るが、誰一人として出入りする姿を見なかった。そのすぐ道沿いに分水のシンボルの完工記念碑が堂々と、そして静かな佇まいで建っていた。その石碑の上部の、「人類ノ為メ 国ノ為メ」の文字だけは私にも分かったが、併列して何やら分からぬ字が14、5記されてあった。エスペラント語とかの万国共通語とか、云々。そして、その反対面が無類の訓詞の、「万象天意」の有名な格言とは全く知る由もない。

第二章

以降、約60有余年。阪神大震災後、3年前の大豪雨の刈谷田川・五十嵐川の水害、続いての中越地震の山古志の大災害、能登沖の大震災、又々中越沖の柏崎圏の大震災。元凶は平然として去って行くが、最近の大災害は地球全体を恐怖に落し入れて止まぬ昨今、いよいよ我々の住む地球の崩壊終末期到来？と端的に思いますが、事もしばしば感じた次第。

私は一連の大災害後、何故かあの記念碑の詞文を思い出す事に気が付き始めた。あの一節に曰く、「万象ニ天意ヲ覚ル者ハ幸ナリ」実に不可解な文詞である。「天意を覚る」とは、一体如何に解釈すれば良いものか、誠に申し難い日本語の一つではないか。人はそれぞれに立場、地位に依り皆見解が違い、千差万別。したがって定義的に筆舌には大変に難しい事かと存じますが、皆様各位は如何でしょうか。科（化）学者、為政者、各国のリーダーが、昔からもっともっと天意を覚えていればCO₂に依る温暖化等々万象の異変はまだまだ先延ばしも可能であったとかの云々。

私は新ためて考えるに、当の分水記念碑こそは約80年くらい前にすでに近代・将来への警告を発していたではないかと察する次第である。

それがいわゆる「天意を覚え」の名訓の全てではないものか、天意にしたがい、みだりに乱開発（拓）、又は万象を犠牲にしてまでも誰一人として文明開化等は望んで居ないはずでしょうに。

第三章

「9月上旬のニュース、10月4日新潟日報」。地球を囲む上空のCO₂を国家の環境保全か？国際協調の担いか、吾々が住む長岡圏の地下の深層1500mへ高圧封じ込め作戦？先進国ではすでに実践とか。私は震災後、柏崎の原発事故、大宇宙の物騒なCO₂封じ込めの施策（ちょうど卵殻を伏せた様な地層に構成された特殊な地域らしい）には些かなりとも、カルチャーショックを禁じ得ない次第。あれは風評として各位の茶の間の話題に供される事も遠い事ではないでしょうか…。

第四結章

私は機会を有る無に、あの文詞を引用して来た、つもりです。大自然に逆らわず、文明開化に心せよとの忠告の訓詞かと結論すべきではないか。天意を覚えとの発唱のおひざ元の直近の長岡圏に、まさかにも国策とは言え乍ら偶然か否かは別としても国土の代表地に指定？とは如何にも不自然で不可解に思う次第。

そこで私は今回の寄稿に際し、絶好の機会と思い、大変に僥越とは思いますが此の世界には無類の「大河津分水特優（有）」な文化遺訓を会員相互の合言葉として、双手を挙げ輝く大のブランドを風化する事なく我々の誇りとして、常々に心して睦まじく遠い道のりを同行しようではありませんか。

「万象ニ天意ヲ覚ル者ハ幸ナリ」「人類ノ為メ 国ノ為メ」

次のご指名は山田正義さんと松井健太郎さんです。